

- 問1 心臓が縮んだりゆるんだりして、体の中に血液を送り出す動きのことを何といいますか。
- 問2 心臓から送り出された血液は、からだの各部分に酸素や養分をわたしたあと、かわりに何を受けとって心臓にもどりますか。
- 問3 口の中で食べ物とまざる液には、食べ物に含まれるてんぷん<sup>ふく</sup>を別のものに変化させるはたらきがあります。この液のはたらきを何といいますか。
- 問4 肺や心臓の下あたりにある重さ約1kgの臓器で、小腸で吸収した養分をたくわえ、必要ときに全身に送り出すはたらきをしているものはどれですか。
- 問5 血液が心臓から送り出されて全身をめぐり、必要なものを運んで再び心臓へ<sup>もど</sup>戻る一連の流れを何といいますか。
- 問6 肺に送られて二酸化炭素を出し、酸素をとり入れて、ふたたび心臓にもどるものを何をよびますか。
- 問7 食べ物が歯などで細かくされたあと、だ液などによってからだに吸収されやすい養分に変えられることを何といいますか。
- 問8 手首などで感じるることができる脈はくのテンポ（速さ）は、体の中のあるものの動きと同じですが、それは何ですか。
- 問9 心臓がたえず動き続けることによって、全身に送られているものはどれですか。
- 問10 ヒトが体の中から外へ吐き出す<sup>はきだす</sup>空気のこと、吸う息に比べて酸素が減り、二酸化炭素や水（水蒸気）が多くふくまれているものを何といいますか。
- 問11 心臓のはたらきによって送り出された血液の流れでできるもので、手首などで感じることもできるものを何といいますか。
- 問12 タンパク質が体の中で使われるときにできる有毒なアンモニアを、かん臓が無毒な物質につくり変えたものを何といいますか。
- 問13 ヒトが呼吸をするときに、まわりから体の中に吸い込む<sup>すいこむ</sup>空気のことを何といいますか。
- 問14 運動をしたときに、心臓が速く動くことによって、ふだんよりも数が増えるものはどれですか。
- 問15 私たちの体の中で、血液を全身に送り出すはたらきをしている臓器はどれですか。
- 問16 空気中の酸素の一部を体にとり入れ、体の中でできた二酸化炭素を外にはき出すはたらきのことを何といいますか。

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	答え はく動	心臓が縮んだりゆるんだりして血液を送り出す動きを「はく動」といいます。
問2	答え いらなくなった二酸化炭素	血液はからだの各部分に酸素や養分をわたしたあと、不要になった二酸化炭素を受けとって心臓へと戻っていきます。
問3	答え だ液のはたらき	口の中で分泌されるだ液には、食べ物に含まれるたんぱく質を別のものに変化させるはたらきがあります。
問4	答え かん臓	肺や心臓の下あたりにある重さ約1kgの臓器はかん臓です。小腸で吸収した養分をたくわえて全身に送り出す役割を持っています。
問5	答え 血液の循環	血液が心臓から送り出されて全身をめぐる、再び心臓へ戻る流れを「血液の循環」といいます。
問6	答え 心臓にもどった血液	肺で二酸化炭素を出して酸素をとり入れた血液は、ふたたび心臓にもどります。
問7	答え 消化	食べ物を細かくし、だ液などの働きによってからだに吸収されやすい養分に変えることを消化といいます。
問8	答え 心臓のはく動	脈はくのはく動（速さ）は、心臓が血液を送り出すときのはく動と同じになります。
問9	答え 血液	心臓はポンプのように動くことで、血液を全身に送り出すはたらきをしています。
問10	答え はいた息	ヒトが体の中から吐き出す空気のことを「はいた息」といいます。吸う息に比べて、酸素が減って二酸化炭素や水蒸気が増えているのが特徴です。
問11	答え 脈はく	心臓から送り出された血液の流れによって生じるもので、手首などで触れて確かめることができるものを脈はくといいます。
問12	答え によろ素	タンパク質が使われたときにできる有毒なアンモニアを、かん臓が無毒に変えた物質をによろ素といいます。
問13	答え 吸う息	ヒトが呼吸で体の中に取り入れるまわりの空気のことを「吸う息」といいます。
問14	答え 運動時の脈はく数	運動をすると心臓が速く動くため、手首などで測る脈はくのはく数がふだんよりも増えます。
問15	答え 心臓	血液を全身に送り出すポンプのようなはたらきをしている臓器は心臓です。
問16	答え 呼吸	空気中の酸素を体にとり入れ、体内でできた二酸化炭素を外に出すはたらきを呼吸といいます。